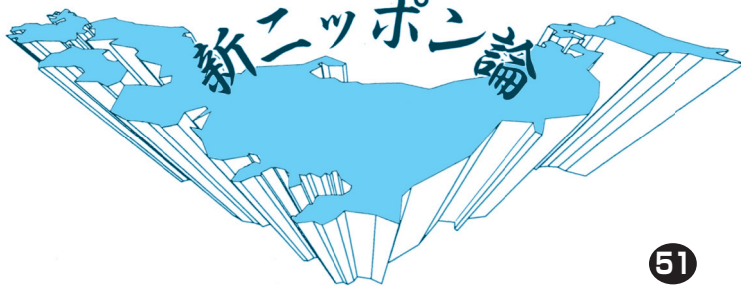


田中康夫の



ゲーム理論

51

「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として社会人として、社会に貢献できる人材を養成する」。高邁な「建学の理念」を掲げる「加計学園」

科学省の大学設置・学校法人審議会は8月25日、既存の獣医学部では約4ヶ月間に及ぶ実習を僅か1ヶ月間でこなす「促成栽培」は、「次代を担う生命科学の獣医師養成」の理念に悖ると指摘。認可判断の保留を決定しました。

評価額36億円の敷地を今治市が無償譲渡。同市と愛媛県が校舎・施設整備費として補助金96億円を拠出。国家戦略特区に於ける獣医学部新設の特例措置を内閣府が適用。特例が過ぎる〴〵と地元市民が前日24日に東京で会見。建設費水増し&補助金搾取「疑惑」の具体的裏付けとして設計図52枚をネット上でも公開しました。

「印象操作」と抗弁するかと思いきや、校舎最上階の大ホールに併設「ワインセラー・ビールディスプレイ」は……図面に記載が確認されましたが……関係各所からの指摘、意見を頂戴し学園内で精査……現在の計画には入っておりません」と報道機関に加計学園はFAX。図面を認め、法外な坪単価「疑惑」も是認する展開に。

広さ100畳を誇り、瀬戸内海を一望する校舎最上階の大ホール直下は、バイオセーフティレベル

ル3＝BSL3に該当の黄熱病、鳥インフルエンザ、SARS、HIV等の細菌・ウイルス・病原体を扱う実験室。登録者以外は立入禁止の空間は大ホールの8分の1にも満たぬ12畳。「世界に冠たる先端ライフサイエンス研究」を謳う学園の理念を疑います。

文科省が「挙証責任」を果たせず、内閣府に負けた段階で「議論終了」。52年振りの獣医学部新設こそドリルで「岩盤規制」に穴を開け、「歪められてきた行政を正す」歴史的な第一歩。と巧言を弄する面々が「国家戦略特区ワーキンググループ」の周囲を徘徊。

彼らは「到来する成果」でなく「突破する過程」を「ゲーム理論」的に楽しんでいるだけなのでは？ 訝しく感じていると畏兄・郷原信郎氏が「加計問題、『総理のご意向』を仕組んだ『真犯人』は誰か』恐るべき18歳の推理」と題し、Tomoki Kitaguchi名でFacebookに投稿された「加計問題の真相? (フィクションとしてお楽しみください)」をブログで紹介。以下に再録します。

「スピード感を持って規制緩和する」という「総理の意向」を、

それとなくボカして伝えるだけで、「加計学園で何としても獣医学部新設を実現する」とのメッセージとして解釈してくれる……交渉の過程で飛び出した「獣医学部の空白地帯に限る」や「一校・一地域に限る」といった後付けの条件は……「全国展開」を見据える特区WGとしては不本意なものだが、「加計ありき」で動いてくれている人々にそれを言っても仕方ないことだ。「1つの区域で規制改革が認められれば、他の区域でも認められる」という「特区ルール」を発動させることができれば、「事情が変わった」などと言い訳して、ちやぶ台返しすれば良い。

加計学園で実現すれば、後はどうとでもなる……向かうところ敵なし……規制緩和バンザイ！自由競争バンザイ！安倍首相バンザイ！。灘高等学校3年在学中の青年の推理に舌を巻きます。

問題は獣医師数の多寡でなく地域・職域の偏在の是正にも拘らず、更に現在120万人の18歳人口が20年後には3分の2の80万人へ激減するにも拘らず、本質を見極めて解決しようとしないうニッポン。

求められるべきは人倫です。

グループの岡山理科大学が今治市に計画する獣医学部を巡って、
甲論乙駁 状態が続いています。

今年5月段階でも入学定員や教員構成の再検討を求めている文部

★次号のニッポン論の発行口はのびる口。